

絹谷幸二キッズ絵画コンクールで、グランプリを受賞した「自然にやさしい風力発電」



国内外の小・中学生が絵画の腕を競う、第1回絹谷幸二天空美術館キッズ絵画コンクールで3千点を超える作品の中からグランプリに輝いたのは舂井勝秋さんです。

舂井さんの絵画との出会いは、小学1年生の時。岩国・和木学校美術展覧会で「くじらぐもにのって」というテーマで水彩画を描いたことでした。くじらのイメージからは連想できない独特な赤の配色に、繊細なタッチで描かれた作品は特選に選ばれました。舂井さんは「細かい所まで絵で表現することが好きで、色の合わせ方はお父さんの服の色の合わせ方を参考にしました」と当時を振り返ります。

この入賞を契機に、家族からの応援も受けて絵画教室に通うことになりました。そしてこの絵画教室で

益村司先生との出会いがありました。

「この出会いがなければ僕はグランプリを取れなかったかもしれない」と舂井さんは話します。

益村先生から受けた指導の中で舂井さんが特に気を付けていることは塗り残しをしないことと、薄い色から塗ることの2つ。先生の

個性を尊重する指導方法が舂井さんの独特な発想力を生かしながら絵を描くことにつながっています。益村先生や絹谷幸二さんは舂井さんの絵について口をそろえて「発想力が他の人とは違う」と言います。舂井さんの発想力の源泉は「家族が色々な場所やイベントに連れていってくれて、たくさん経験させてくれることだと思う」と語ります。

そんな舂井さんが描く未来像について尋ねると「将来の夢はまだ決まっていません。僕は絵も好きだけれど、絶対に画家になりたいわけではありません。今もお父さんとお母さんがたくさん習い事や経験をさせてくれていて、これから多くの経験をしながら、本当にやりたいことを見つけていきたい。選択肢を増やし、どのような仕事に就くか選ぶことができる人になりたい」と力強く語ってくれました。



多種多様なイベントに積極的に参加し、新たなことに挑戦し続ける舂井さん



全体の構成から細かな技法など多くのことを益村先生（写真左）から学んでいる



多様な経験を通して 感じたことを絵画で表現

Vol.156

舂井 ^{かつあき} 勝秋さん
(錦見在住)

岩国小学校に通う小学5年生。スイミング、習字、学研、英会話など絵画のほかにも多くの習い事をしている。小学校の友達と最近夢中になっている遊びは、「ドッジボール」と「当てご」。

